

# みみょう幼稚園だより



## 今年も充実のみみょうフェスティバル！ ありがとうございました！

今年も、新年度を迎えてから早々より、妙和会役員の皆さんをはじめ、お母様方にはバザーの準備を着々と進めていただきました。そんな皆さんの力強いお姿を目の当たりにしながら、私たち職員も、子どもたち一人ひとりが楽しく、より伸び伸びとあそぶことのできる日々にしていくこと、そして、そうしたあそびの成果をしっかりと感じていただける作品展を開催していくことを目指していきました。

春から折に触れて楽しんできたお絵かきでは、子どもたちの嬉しいや大好き、びっくりなどでいっぱいの中から、先生たちは思いを込めて1枚を選び展示しました。「こんなこと言いながら描いていたんですよ。こんな工夫をしていたんですよ。これも〇〇ちゃんらしいでしょう。」と最後の最後まで迷いに迷って選んでいました。ですから、それぞれの絵を見ると、子どもの表情や製作中の様子だけでなく、その絵について嬉しそうに説明してくれる先生たちの表情までもが浮かんできました。

メインホールでは、子どもたちが「宇宙」を素材に、気付き、驚き、考えながら思いっきりあそび込みました。「宇宙作りについて、子どもが一生懸命話してくれました。」と教えてくださったお母さんもおられ、私たちが目指している「主体的なあそび」に迫ってきているのではないかと手ごたえを感じることもできました。年長から年中、年少へと、工夫やアイデアは広がりを見せ、今も、それぞれの保育室で発展し続けています。

これからも、皆様のご支援やご協力をいただきながら、子どもたちの自ら伸びようとする力がしっかりと発揮できる幼稚園を目指し続けていきたいと思っております。ありがとうございました。

## 主体性から自立心へ

幼児期の終わりまでに育ててほしい10の姿の中に自立心があります。一般的には、人に頼らず自分の力で物事をやろうとする心構えのことですが、平成29年3月に告示された新しい幼稚園教育要領では「身近な環境に主体的に関わり様ざまな活動を楽しむ中で、しなければならぬことを自覚し、自分の力でやるために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。」と示されています。そして、これは「学びに向かう力」に直結していると言われています。



子どもたちは、幼稚園で、季節や素材、友だちといっしょに、楽しいあそびを見つけ出したり、作り出したりしています。思い通りにならない時には、やり直したり言葉にしたりしながら、小さな困難を乗り越える経験も積み重ねていきます。こうして先の見通しやイメージも持てるようになっていき、さらには、自分の力を使っていくことの喜びを味わい自信も高めていきます。幼児の場合、自覚をもつということは、容易にできることではありませんが、自立心は、ずっと伸び続けていきます。小学生くらいになると、うまくいかない時やいやになったり飽きてしまったりした時にも、自分を励ましたり試行錯誤を繰り返したりしながら実現していこうとする姿勢となって表われてきます。手間をかけ粘り強く取り組むことによって得られる達成感は、学びの醍醐味や面白さ＝学ぶ喜びとなり、次のステージに向かう原動力となります。自分自身の高まりを自覚しながら成長できる喜びは、生涯を通して味わっていききたいものです。乳幼児期のあそびは、生涯に渡ってより良い生活を営もうとする力の源となるのです。

(園長 三上 玲子)



📌 今日の一句 『 少しずつ 寒さつきさす 日々になり 』

(段原交番 藤原巡查部長の作品です。いつも巡回の際に、必ず俳句や川柳を書き添えたパトロールカードをポストに入れてくださいます。深夜に早朝に、ごくろうさまです。)